

こんにちは 牛越です

【第170回】
市制70周年
を祝う



大町市長
牛越 徹

先月5日、市制施行70周年の記念式典を、衆参両院の国会議員はじめ、県議会議員、姉妹都市、友好都市、近隣市町村の首長、議長などの来賓と市民の皆様合わせて約600人のご出席のもと、文化会館で開催しました。

大町市は昭和29年7月1日、大町および平村、常盤村、社村の一町三村が合併し、市制を施行しました。当時、県内他の地域では、合併に対する反対運動がある中、大町では若い世代の皆さんが中心となり合併推進に向けて活動を展開し、やがて幅広い運動となり、念願の合併に至りました。

私は式辞でこうした経緯を振り返り、この当時の合併に向けての活動は、平成18年1月1日に八坂村、美麻村と合併した、現在の大町市が進める「市民参加と協働」の先駆けともいえ、郷土を想う市民の皆様の主体的な取り組みが、今日まで脈々と受け継がれていると述べました。この70周年記念の年を、先人たちが、営々と地域を築き上げてこられた偉業に思いを寄せ、

郷土の歴史、文化を改めて振り返り、天与の恵みや貴重な地域の資産を、確実に後世に引き継ぐ気持ちで新たに作る機会にしたいと思います。そして、市民の皆様の手により、市の目指す将来像「未来を育む ひとが輝く 信濃おおまち」の実現に向けて、市民が主役となり、いきいきと輝く、活力と魅力にあふれるまちづくりに、改めて取り組みます。

式典の結びに、次の時代を託す市内3校の中学生の代表が、市民憲章第1章の「厳しい風雪に耐えてたくましく、心優しく生きる市民です」から第5章「郷土を愛し、自己をみがき、未来を創る幸せを喜び合う市民です」までの各章を朗読しました。

この市民憲章にうたわれた市民像の実現に向け、力を尽くして前進することが今に生きる私たちに課せられた重要な使命だと考えます。10年後、さらには50年後も暮らし続けることのできる大町市の発展のため、市民の皆様のおいっそうのご協力をお願い申し上げます。